



JCOMMデザイン賞 受賞！ ホジロバツール 評価



6
ペ
ー
ジ
に
関
連
記
事

活動報告

- 6月27日 事務局会議
- 28日～29日 福井市環境展
- 7月1日 全国路面電車サミット実行委員会
- 4日～5日
第3回JCOMM(デザイン賞表彰式)
- 4日 事務局会議
- 5日 阪堺線・LRT計画視察
- 11日 事務局会議
- 18日 ROBA例会

今後の予定

- 7月23日(火)サミット実行委員会
- 25日(金)事務局会議
- 8月5日(火)全国路面電車サミット実行委員会
- 8日(金)例会・理事会
- 9日(日)鯖江市環境フェア
- 22日(金)事務局会議
- 23日(土)～24日(日)
中部地区路面電車サミット in 岐阜(関市)

ゆうじんの部屋 書籍紹介

クリエイティブ資本論

リチャード・フロリダ著 井口典夫訳 ダイアモンド社
2800円＋税 ISBN978-4-478-00173-8 C3033

10年ほど前から、「これからは創造的な知識層が都市を選ぶ時代。産業基盤より、都市の魅力づくりが重要」と言われてきて、日本の各都市もそうした方向の都市政策をめざしてきた。でも具体的にどうしていいかわからない。この本が推奨しているのは「多様性への寛容」である。

2002年に書かれた本なのに、日本やドイツは単一民族なので衰退しているとか、それを一時的傾向でないことをしっかり捕らえている。経済の分野で今になって「ガラパゴス化」の弊害が叫ばれている。なのに東京は、どんどん不寛容な都市になりつつある気がする。秋葉原のパフォーマンス規制などは、セクハラ対策に名を借りて、警察がどこまで言論・表現規制に世論やマスコミが同調するか試している気がする。都市計画の専門家と思っていたジェイコブスがよく引用されていることを考えると、ハードの都市計画と都市政策の狭間の本のようなものである。

ボヘミアン、ゲイといった用語のイメージが日本人にはわかりにくいので、最初は読みにくい気がしたが、訳本の割にはすこぶるわかりやすい本である。書き出すと止まらなくなるほど「読みどころ」が多い本であり、是非お勧めする。

(財)国土技術研究センター調査第3部長 美濃部 雄人 Minobe Yujin

サミット通信 vol. 4

第9回 全国路面電車サミット2008 福井大会の予定企画

開催日程 2008年10月17日(金)、18日(土)、19日(日)



サミットのテーマ 「ひと・まち・環境をつなぐLRT」

(現段階の予定。変更の可能性があります。) 公式ホームページもご覧下さい <http://www1.ocn.ne.jp/~rodensum/>

10月17日(金) 会場:AOSSA(アオッサ)8階 県民ホール

公共交通とまちづくりセミナー

13:00~17:00

最新の法制度、および最新のLRT技術について国土交通省の講演を予定

公共交通とまちづくりについての講演 (財団法人地域環境研究所(IRE)主催)

ウェルカムパーティ 会場:ターミナルホテルフクイ1F赤茄子亭(トマトてい)

17:30~19:00

10月18日(土)

福井大学 バッテリートラム実験公開 開催場所:福井鉄道福武線西武生駅

10:00~11:00

路面電車・LRTの最新事情 会場:織協ビル8階ホール (開場12:30)

13:00~17:10

福武線についての意識調査アンケート報告

福井の路面電車事情についての講演

世界のLRTやトラムトレインの画像・映像による紹介

全国の路面電車の最新事情

LRT整備推進都市からの報告

路面電車ミニツアー サミット会場からレセプション会場まで福鉄の3種類の電車で移動します 17:30~18:30

歓迎レセプション 会場:福井商工会議所8階 レストラン プローニュ

19:00~

10月19日(日) (いずれの会場も開場は9:00)

第一会場:AOSSA6階 605号室

第二会場:AOSSA7階 706・707号室

全国路面電車愛好支援団体協議会代表者会議 9:20~10:00

地域公共政策学会講演会 9:30~12:30

第三会場:AOSSA8階 県民ホール

全国路面電車サミット会議

10:00~12:00

全国の愛好支援団体の意見交換、情報交換

ハーブとマリンバのミニライブ

13:00~13:40

ハーブ演奏+マリンバ演奏

LRTフォーラム

13:50~15:50

福井市・富山市の交通政策についての説明

福井・富山 市長会談 『(仮題)まちづくりにおける都市交通政策を考える』 聞き手:福井大学 川上洋司教授

サミット宣言

15:50~16:00

関連イベント

17日~19日予定 : 全国路面電車愛好支援団体ブース 会場:AOSSA1階 アトリウム

18日~19日予定 : 世界のLRTパネル展 会場:AOSSA1階 アトリウム カーフリーデー福井、ハチドリ計画
えちぜん鉄道・福井鉄道乗車イベント (1日フリー記念切符を発売。フリーツアーがおすすめです)

19日予定 : カーフリーデー環境ツアー(えちぜん鉄道三国芦原線)

『このまちと~まれ2008』 (福井駅周辺)

以上

市民自治最前線・みんなの公共交通「福鉄」を考える会談に参加して 高橋 八州太郎

今回の企画は丹南市民自治研センターの呼びかけがあり、住民、NPO、労働者、事業者のそれぞれの立場から「福井鉄道福武線」をどのようにして守っていくか、具体的に利用促進をどうしたらいいかをメインテーマに ROBA 高橋を含む以下の方々4名で会談をする企画に出席させていただいた。平成20年6月18日、鯖江NPOセンターの会議室の一室で午後7時から9時まで意見交換を行なわれた。

出席者は 大柳 登氏(越前市福武線を応援する連絡協議会会長、越前市市区長会連合会 会長)
中野 学氏(連合福井 鯖丹地域協議会 議長)
前田 美津雄氏(福井鉄道 社員)
高橋 八州太郎(特)ふくい路面電車とまちづくりの会 事務局員

司会は丹南市民自治研センター理事長の伊藤藤夫氏が担当された。

司会からいくつかの質問が出され、それに対し、各人が答えていく形式で進められた。以下に主な3つの質問が出され、その回答をめぐって又皆で意見を言うなど、活発な発言が多かった。

①皆さんの福鉄に対する活動について

②地方私鉄に対する行政の取組み方、関わり方について

③あなたが福井鉄道の社長になったら何をしますか？

①の ROBA の回答としては、「住民の方へなぜ福鉄を守らなければいけないのか？」との情報提供が十分になされていないことが問題であることを指摘、自分達で集めた資料を多くの方に提供することを意識していることを紹介した。一方、高校生と共に行なった「駅からの文化祭」と称して行なった「駅美化運動」、これには、実際に駅でゴミ拾いや、看板、公告、掲示板の整理などの実演をして、やれることからできることを大きくアピールした活動であることを紹介、そして今後このような活動を「サポーター組織」で行なう事が重要であるとの指摘をした。

②では、行政も事業者も精一杯の取組みをしているので、「三方一両損」の故事にならない、今後は利用者、住民が汗をかくべきではないかと提案、具体的にはサポーター組織での運営や、募金活動、乗る運動などですが、事業者、行政は乗りやすくする仕組み造りに真摯に取り組む必要がることも指摘をした。

③では各駅ごとに『駅を守る委員会』をつくり、地域の方とのコミュニケーションを大事にしていき、事業者、利用者が同じ情報を共有しあいたいといったような回答をさせていただきました。公式な会合とは違って、お互いがそれぞれの立場で本音に近い話ができることは有意義であったと確信します。更に、「議論のための議論」ではなく、まさに「どうする！福武線」といったようなところから話し合っているところがいいと感じた。

また、関連する団体がそれぞれの思いで活動をしている様子がよくわかった。これからできるであろう3市のそれぞれの組織が一体となって連携し、一つの大きなパワーで、この福井鉄道を守ろうという運動を盛り上げていかなければならないことを痛感した会談であった。

(会談の詳細は自治研発行のニュースに掲載される予定であるとの事)

『明日の金沢の交通を考える市民会議』平成19年度活動報告会に参加して

(文・写真 塚谷康夫)

6月21日の土曜日、明日の金沢の交通を考える市民会議平成19年度活動報告会があるということを知りつけて、ROBAのメンバー3人(清水、高橋、塚谷)はお隣の県の県庁所在地である金沢まで足を運んでまいりました。6月も終わりに近いといふのになかなかまとまった雨が降らず、五月晴れと真夏の晴れの日とを足して2で割ったような微妙な暑さの中、金沢の繁華街香林坊のすぐ近く、石川県広坂庁舎の2階にある石川県NPO活動支援センター“あいむ”の会議室で、約30人が集まりました。地元の方だけでなく、福井(私たち3人)、富山からも出席があったようです。



挨拶などの後、平成19年度の主要な活動であった3つの調査報告がそれぞれなされました。「明日の金沢の交通を考える市民会議」の活動の中心の話題です。

まず「歩道上のハミ出し、放置ゴミの実態調査」について。平成19年11月から平成20年1月にかけて合計3回、金沢市内各所の歩道付き道路(1区間それぞれ約1.5キロずつ両側、計10区間)の放置ゴミ、ハミ出し物件、立て看板、自転車・ミニバイクの違法駐輪などの状況が調査されました。全般的に予想よりは放置物が少なかったものの、繁華街やコンビニ・パチンコ店などで違法自転車や立て看板が目立ったという報告がなされました。

次に「横断歩道の安全性調査」について。車の通行台数が多い国道8号線(山側環状線)と海側環状線の金沢市の全エリアにあるすべての歩行者横断施設(横断歩道19箇所・地下道10箇所)において、信号機の状態、歩道と横断歩道の段差、横断地下道の状態(自転車や車椅子が通れるか)など、8項目に分けてのチェックがなされました。全般的に、歩道との段差は少なかったものの、車椅子が通行困難か不可能である地下道が多く、信号機の青信号の時間が短い横断歩道も見受けられたそうです。

そして「高齢化社会に向けての交通手段に関する調査」について。平成19年8月から9月にかけて、金沢市内の58公民館にアンケート用紙を置いておき、そのうち49公民館から回答を得たという調査です。調査項目が多岐にわたるのでまとめるのが難しいのですが、全般的に見えてくる傾向としては、やはり公共交通のインフラが整っている都市中心部ほど鉄道・バスの利用者が多く郊外はマイカー中心の生活であること、自分が今主体としている交通手段に対しては甘い意見が多いがそれと対立する交通手段(マイカー 徒歩・自転車)のルール・マナー違反などには厳しい意見が多い、というのが垣間見えてきました。

「明日の金沢の交通を考える市民会議」は、設立がROBAよりも古く、今年が11周年目を迎えるそうです。事務局が金沢市(交通政策課)ということで若干お役所的な面も見られましたが、しっかりとしたデータ収集能力はROBAも見習わなければならないなという思いを胸にしました。

7月5日(土)堺市のLRTの計画について視察をしてきました。

ROBA / 高橋、塚谷、松原、内田

堺市 建設都市局鉄軌道推進室 室次長兼鉄軌道企画担当課長 / 田村啓一郎さん

大阪産業大学 人間環境学部 生活環境学科教授 / 塚本直幸さん

堺のチンチン電車を愛する会 / 金田徳蔵さん 乾昭利さん



LRTのルートとなる道路を路線バスに乗車して案内していただきながら堺市の中心市街地一角にある大阪産業大学のサテライトスポット「さかいLRT研究交流センター」に到着して、参加者から堺市作成の「東西鉄軌道基本計画」について冊子に基づき説明をいただきました。LRT研究交流センターは堺市では言えないことや小回りが利かないところを市民に伝えようと、情報の提供、情報の収集、研究を塚本教授と学生が中心となって運営をしています。この運営は上下分離で部屋の家賃や維持費は堺市が負担し運営経費は大学が負担していると言う。塚本教授はLRTに関してとても熱い人で、部屋中がLRTの説明のパネルでいっぱいでした。

その後、外に出て堺市役所22階展望フロアから街の全体像を眺め、バス、阪堺電車を乗り継ぎ市内を散策しました。堺のチンチン電車を愛する会のお二人には、暑い中ずっとご同行をいただき、また、歴史や産業、LRT実現に向けての本音の話を聞くことができました。本当にありがとうございました。実際に街歩きをすると、いろんな発見ができて大変有意義な一日を過ごすことができました。強行日程のスケジュールでしたが、疲れも吹っ飛ばす収穫の多い旅でした。



JCOMMデザイン賞授賞式参加報告

林 博、畑、松原

これまで、MAP部会が取り組んできたホジロバ交通の情報ツール一式が、日本モビリティ・マネジメント会議（JCOMM）のデザイン賞を受賞し、7月4、5日、その授賞式に参加してきました。

いきなり驚かされたのは、地下鉄蹴上駅の改札を出たところに、学生が立って会場案内をしていました。上がったところ、横断するところなど、会場までのコントロールポイントに人の案内。これがMM魂か！



次に驚いたのは、お弁当を食べるところですが、真ん中の写真の別館和室。二日連続の、お世辞にもうまいとはいえない弁当でも、おいしく感じました。

パネル展示コーナーには、狭い本会場に入れない人のために、テレビ中継が放映されており、運営者にとっては苦肉の策だったようですが、パネルの前に釘付けにされていた私たちやスタッフたちにとっては、発表も聞けて大変ありがたい方法でした。どこでもできるわけでないけど、どこかで使えそうですね。

ちなみにROBAのパネルは、正面左端です。拡大するとこんな感じの力作。



JCOMM デザイン賞

ふくいのりのりマップをはじめとするホジロバ交通情報関連ツール一式

特定非営利活動法人ふくい路面電車とまちづくりの会（ROBA）

歩行者・自転車・路面電車・バスなど、環境にやさしい公共交通手段（ホジロバ交通）に関する情報を、「家を出るまえから帰宅するまで」の連続した行動として総合的にとらえてデザインすることで、車に頼りがちな行動をも変えられると考え、一連のホジロバ交通情報関連ツールを作成し、提供している。

バス電車マップ「のりのりマップ」は、最も基本となるホジロバ（歩自路バ）マップとして、地名や施設による位置情報、移動距離などが容易に確認できるよう、都市基本図をベースとして作成している。また、姉妹版の歩行者・自転車マップ「りんりんマップ」を作成し、併せて持ち歩きやすいようにデザインしている。「のりのりマップ mini」は無料配布用の手折り廉価版で、県内小中学校の社外活動を支援する総合学習用教材、高校新生バス電車通学定期購入時の案内資料、転入者へのクルマ購入までの公共交通案内資料として使用している。また、時刻表は、WEB版の「ばすでんしゃねっと・ふくい」でマップをベースに全ての路線別の最新時刻表を提供するとともに、各地域と交通ターミナルを結ぶ全ての交通手段を統合した平日休日別の往復時刻表「地域時刻表」を提供し、プリントアウトして持ち歩けるようにしている。

「協働による公共交通とまちづくりのすすめ」は、市民に日常生活行動を見直し公共交通の利用を促すための公共交通まちづくりガイドブックで、ホジロバまちづくりキャラバンの資料として活用している。

- JCOMM 実行委員会から -

限られたスペースにバスの始終発時刻や運行間隔等のサービスレベル情報をコンパクトにまとめている点と、携帯性や作成費を考慮しつつ、路線図の大きさや綴じ方等について改善を加え続けながら継続した取組として一連のバスマップを作成している点が高く評価され、JCOMMデザイン賞に選定されました。

福井市麻生津地区 福鉄をみんなで考えようフォーラム

日時：平成 20 年 7 月 5 日(土) 19:00~21:00

場所：麻生津公民館

参加者：120名

(地区住民、福鉄：今枝常務・白崎氏、笠松県議、ROBA：清水・畑)



「福武線をみんなで考えよう」のフォーラムが開催されました。

第1部では、勝山市電車利用促進協議会の前会長 滝川裕司さんから、

「復活したえちぜん鉄道と地域住民の取り組み」と題した講演がありました。第2部はフリートークで、コーディネーターを麻生津地区福武線サポート団体協議会長宮本さん、アドバイザーとして講師の滝川さんとROBAから清水事務局長が壇上に上がり、会場にお越しの方と“電車を利用するためにはどのような方法があるか”について意見交換をしました。主な意見は以下のとおりです。

杉の木台第7自治会

役員 11 人が誰も電車に乗ったことがないし、家族も乗ったことがないので、乗るようになるためには...と皆で考えた。

・「駅までのアクセスがない」

福鉄浅水駅を利用したいがJR大土呂に行って乗り継いでしまうので、三十八社あたりに無料のP & Rができると、杉の木台の団地からの利用が増える。

・「電車に乗った後の手段をどうするか」

駅から離れた施設だと、そこまでの交通手段がないので困る。

江尻ヶ丘

・運賃が高いため、昼間時間だけ運賃を下げられないか。

三尾野町

- ・P & Rで電車を利用しているが、低床電車は狭いので乗り心地が悪く感じる。
- ・普通電車は車より遅くなるので困る。

どこかの自治会さん

乗って欲しい・乗りたくなる電車にするには...を自分なりに考えた。

・「乗ってくれ電車」ではダメなので、便利になったことを実感できる電車にしたい。

駅へのアクセスは東西のアクセス改善を要望したい。

サイクルトレインができるといい

私が直接聞いた声

- ・浅水駅は自転車の盗難が多いようだ。
- ・雨合羽を備え付けたレンタサイクルがあるとよい。

感想

電車に乗ったことがない人がたくさんいそうな感じがしましたが、「何とかして電車を残す」「電車を利用するためには自分たちはどうしたらいいのか」「行政などをお願いすることは何があるか」について皆で考え、真剣に取り組んでいる気迫を、会場の雰囲気を通じて感じることができました。この真剣な思いは今年19日にある清明地区でのフォーラムでも同じだと思いますが、勝山で行われた京福電車の存続決起大会で感じたあの雰囲気そのものでした。意見交換の中では「行政が何とかしてくれないと!」とか「福鉄がもっとがんばらんと!」と言った発言は1言もなく、自分たちが利用できる電車にすることを本気で考えている姿勢が本当に伝わってくるのです。私たちにとっては当たり前のことでも、地域の方にとっては新しい画期的な意見に聞こえます。小さな出来事を通じて大きな成果にできるように支援していけたら...と思った1日でした。

(はた みゆき)



7月7日(月)15:00~20:00、より良いJR森田駅をめざして、JR利用者を対象にアンケート配布を森田地区文化委員会のメンバーで行ないました。

アンケートは7月31日(木)まで、JR森田駅構内に置いてもらい10月の森田地区文化祭で報告予定。



7月13日(日)ROBAより林博、高橋、鳥居の3人も参加し森田地区公共交通調査を行ないました。最初はJR春江駅の坂井市営駐車場を訪問し、吉川氏(坂井市春江総合支所)から駐車場建設の経緯と現在の利用状況の説明を受けた。次にJR森田駅に戻り環境調査を行なった。現在、森田駅には月極駐車場はありますが、P&Rの特徴のひとつ、フリーに駐車できるスペースがなく(春江駅では20台程駐車スペースあり/1日300円)これが大きな課題。その後、森田公民館に戻り、調査済みのバス停環境について話し合い、

区画整理などにより専用歩道が整備されたバス停から、ベンチ設置も検討していくことになりました。

それにしても、暑かったですね。



作/漆崎 耕次

編集後記・・・編集委員より一言

林(変集長)

「目指せ!住んでみたい街森田/コバ^o外^oテイ森田!」

塚谷(副編集長)

「堺での収穫は『風邪』も含まれます」

内田(発行責任者)

「堺市のLRT、早期開業応援します!」

事務局 特定非営利活動法人

ふくい路面電車とまちづくりの会(ROBA)

910-8031

福井市種池1丁目1905-3

TEL:0776-25-7968

e-mail: roba@mbh.nifty.com

URL: <http://roba.cocolog-nifty.com/roba/home/>